

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価書】

<p>令和元年度 重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業改善、少人数の特性を生かした指導、家庭学習習慣の定着を相互的に連動させて「主体的に学習に取り組む態度」を育成することによって総合的な学力の向上を図る。 ・よりよい学級づくりを通して深める横の人間関係づくり、縦割り活動を通して進める縦の人間関係づくりによって子どもの自己有用感を高め、考えや行動に対する自信と責任が持てるようにする。 ・自分を大切にすると同時に、常に相手の立場になって物事を考えることや、人の痛みを分かろうとする気持ちを大切にし、いじめや差別を許さない人権尊重の精神を育てる。

<p>「確かな学び」の現状</p> <p>3年間取り組んでいる堺授業スタンダードを基盤に据えた授業改革と主体的な学びの成果が表れ、学びの診断テストでは算数科で良好な結果が出ている。しかし、書く力、読み解く力、読書習慣に課題のあることが明らかになった。そこで今年度は国語科を中心とした主体的な学びによる授業改善を進め、すべての学習の基盤となる書く力や読み取る力の向上をめざすとともに読書習慣の育成にも学校をあげて取り組んでいきたい。本校特有の少人数の特性を生かした個に応じたきめ細やかな基礎・基本の徹底を、そして全ての児童が課題に対して、自分の考えを持ち、仲間との意見交流を行って学びあいを行い、自分たちで課題を解決していく主体的な学びを更に進めていきたいと考えている。また、一昨年度よりスタートさせた家庭学習の取り組みも引き続き学校をあげて取り組み、その定着を図ることで学びの基礎力を高め、学力の向上につなげていきたいと考えている。</p>	<p>「豊かな心・健やかな体」の現状</p> <p>本校は、すべての学年が単学級であることから、小学校生活で一度もクラス替えがなく、人間関係が固定化されてしまうという課題がある。そのため、一たび人間関係が崩れると中々回復できないといった問題がある。そこで、重点目標の一つに学級づくりによる横の人間関係づくり、縦割り活動による縦の人間関係づくりを掲げ、固定化されがちな関係性を逆に強い絆として生かし、学級活動や児童会活動、縦割り活動の活性化させることによって、子ども一人ひとりの自己有用感を高め、自分の考えや行動に自信と責任が持てるようにしていきたいと考える。そのために、昨年度より始めた縦割り活動を年間を通して行うようにし、異学年交流の常時化をめざす。また、よりよい学級、よりよい学校づくりにすべての児童が自分たちで考え、活動することによって自治の精神と主体的な行動力を身につけさせたい。</p>
---	---

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～12月)	達成状況(年度末)				
								自己評価	学校関係者評価			
確かな学び	総合的な学力の向上	基礎的な知識・技能の習得を図る。	・朝の読書タイム、読書ノートの表彰などを通して児童の読書活動を充実させる。	・読書時間数 ・読書のノートの記録 ・読書博士表彰数	・実施状況	2月	○ おはなしどんぐりの皆さんによる読み聞かせで興味を持って読書に取り組む	○	家や図書館での1日の読書量の設問項目では、10分以上読書をする児童の数は87.9%であった。また、1,2年も合わせて88.4%となり、児童の読書への意識も高まった。昼のわくわくタイムに基礎学力の充実が図れた。	○	読書量については各家庭での協力が必要であり、学校としても今後とも努力をしてください。	
			・昼のわくわくタイムに、漢字や計算ドリルを反復練習して基礎学力の充実を図る。	・学びの診断による漢字、計算力正答率	・学びの診断テスト結果	2月	○ 基礎学力が少しづつついてきた。	○				
	主体的に学習に取り組む態度を育成し、授業改善をする。	「少林寺っ子ノート(自主学習ノート)」による家庭学習習慣づくりを行い、主体的な学びを総合的に進める。	・家庭学習ノートの提出率70% ・学びの診断、学校評価アンケートの関係項目の結果	・学びの診断テストのアンケート	2月	◎ 質の良い少林寺っ子ノートが子どもたちによって作られ、掲示できている。	○	中・高学年ではしっかりと少林寺っ子ノートが作成され掲示された。低学年は今後の指導が必要である。		○		静謐な環境のクラスとそうでないクラスの差があった。来年はすべてのクラスで学習に取り組んでほしい。
		●国語科を中心とした主体的な学びによる授業改善を進め、すべての学習の基盤となる書く力や読み取る力の向上をめざす	・校内研究授業 ・日常の授業の内容 ・児童のノート内容	・アンケート ・授業観察 ・研究授業	2月	◎ 各学年の丁寧な取り組みで書く力がついてきている。	◎			各学年の研究授業で成果が見られた。		
豊かな心・健やかな体	豊かな心の育成	心の教育の充実を図る。	・道徳の授業をはじめ、すべての教科を通して豊かな心(高い規範意識・豊かな人権感覚・人を愛する心・思いやりの気持ち・命の大切さ等)の教育の実践に取り組む。	・人権教育・道徳教育の年間計画に基づいた指導	・アンケート	2月	○ 子どもたちの人権を尊重した教育活動が少しづつできてきている。	△	子どもたちの人権を守られているが、支援を要する児童の言動で少なからず嫌な思いをさせている場合がある。	○	心の教育は学校でしっかりとつけてくれている。	
			●クラスづくりと縦割り活動を通して横と縦の人間関係づくりに取り組み、子どもの自己有用感を高め、考えや行動に自信と責任が持てるようにする。	・月1回、縦割り活動を実施 ・年間を通じた挨拶指導の実施	・実施状況	2月	◎ 上級生が下級生を丁寧に指導し、仲良く縦割り活動ができている。	◎		少林寺小学校の伝統であるリーダーシップとフォロワーシップができている。		
・毎日の登下校時の挨拶を通して、コミュニケーションの基礎を培う。			・毎日の登下校時の様子	・実施状況	2月	△ あいさつのできる子が少ない。	△	あいさつのできることでできない子の差が依然としてある。		○		
きめ細かな生徒指導	子どもの理解を深め、家庭や専門機関との連携を図り、きめ細かな生徒指導を推進する。	・「いじめアンケート」や「生活習慣チェック」を通して児童の実態を把握し、家庭と連携しながら、いじめや問題行動の未然防止、早期対応に努め、児童に寄り添った生徒指導の充実を図る。	・児童の良好な人間関係の確立 ・生活習慣の改善	・実施状況	2月	△ 人間関係で登校しにくい児童が何人か出てしまった。	△	登校しにくい子どもの状況は幾分改善されてきた。	○	大きな問題なく過ごすことができた。		
		・特別な支援を要する児童の指導にあたっては、学校全体で支援体制を組み、特別支援教育の充実を図る。	・校内特別支援委員会 ・事例報告 ・校内研修会の実施とその成果	・実施状況	2月	◎ 校内特別支援会議を定期的にもち支援体制が確立した。	◎	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の意見を聞きながら行った。	○			
人権教育	人権尊重に根ざした教育の推進を図る。	●トラヂタイムをはじめ学校行事等の様々な場面を通して、国際理解・多文化共生の教育を推進し、人の痛みを分かろうとする気持ちを大切にし、いじめや差別を許さない自尊感情の育成をめざす	・トラヂタイム等で多文化共生教育の推進 ・生活アンケート	・実施状況 ・アンケート	2月	○ 多文化共生教育が計画的になされた。	○	トラヂタイムの実施で多文化共生教育の推進ができた。	○	伝統的に人権教育に取り組んでくれている。		
		・陵西中学校区としての「部落問題学習」を人権教育の中に位置づけ、陵西中学校区の教職員と連携してこれまでの実践を大切にしながら地域の実態に学び、教職員・児童の交流を深める	・公開授業の観察 ・4校交流会の開催	・実施状況	実施時期	○ 特に多様性教育の研修が充実した。	○	陵西中学校との交流で多様性教育の理解が進んだ。	○			

校長より(年度末) 新型コロナウイルスによる休校のため持ち回りで評価となり、学校協議会を開催しない形での評価となります。重点とする取組について授業改善の国語科を中心とした主体的な学びによる授業改善については一定の成果はあった。今後は子どもたちに付けたい資質・能力を中学校区で共有しながら「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点で更なる授業改善をめざしていきたい。縦割り活動を通しての子どもの自尊感情を育成する取組は十分に成果を上げた。上級生は下級生をやさしく見守り、下級生は上級生をモデルとしてそこに一つづつ近づいていこうと頑張っている。国際理解教育と多文化共生教育は市外教務局を中心に子どもたちの差別を許さない態度につながった。来年度も学校力を向上できるよう取り組んでいきたい。

学校関係者評価者から(年度末) おおむね良好な学校を築いてくれている。関係者も一層の協力を惜しまない。